

# 令和5年度 附属長野中学校の教育

信州大学教育学部附属長野中学校

副校長 畑 邦弘

## 一 本校の教育活動

### 1 学校目標 「ともに学び 一人となる」

雪に耐え抜き、気品に満ちた花を咲かせる「戸隠しょうま」のような、気概をもった人間を目指して師弟共に歩んでいこうと、昭和50年、「困苦に耐えるたくましい力をつけよう」「自他共に、よりよく生きよう」「気品のある豊かな心を育てよう」という三つの学校目標が立てられた。この精神は、平成14年度「ともに学び 一人となる」と改められた学校目標の根底に流れている本校の矜持である。



「ともに学び 一人となる」をどのように解釈するのかについて、教師も生徒も事あるごとに自分に問い返し、自分にとっての「ともに学び 一人となる」を意味付け、価値付けられるようにしたい。

### 2 学校経営の目標 「幸福な社会のために新しい価値を創造できる人の育成」

本校での学びに期待と目的をもって入学し、学校生活を送る生徒・保護者、各郡市からの推薦を受け、本校で研修を重ね、力量向上を目指す教職員相互で、10年後の社会を見据えながら、自らの生き方や社会とのつながりを創造的に考える礎となる学びの場を構築していく。

### 3 目指す学校像と教育実践上の留意点

#### (1) 「生徒や保護者・地域、県下の負託に応える学校」

- ①生徒・保護者や地域と連携・協働（HPを活用した情報発信や、オンラインコミュニケーションの充実、自治の力を発揮した学友会活動、学校づくりへの参画等）し、それぞれの立場の願いや考えを共有し、生徒の成長を支える学校を創り上げていく
- ②本校で学ぶ意味、本校に勤務する意味を明確にもち、附属学校園の「三つの使命」を果たすこと通して、生徒・職員のもつ可能性を引き出し、伸ばす（これからの社会に貢献する人材育成）
- ③附属長野地区3校（特別支援・長野小）との連携（交流活動、3校合同プロジェクト活動、キャリア教育の推進等）を図り、地域に貢献・発信できる「あさひの学園」を構想していく。

#### (2) 「地域における先導的・モデル的な学校」

- ①学習指導要領を理解し、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせた、各教科等の本質に迫る学びを前提として、現代的な諸課題に対して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していく教育課程の編成し、日々の授業研究・授業改善を推進し、日常的に公開していく。
- ②地域や実社会（職業）と関わる中で問題を見だし、主体的・協働的に解決していく中で資質・能力を育むとともに、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてるようになるために、社会参画型の「あさひのプロジェクト」を立ち上げ、試行し、日常的に公開していく。
- ③長野県教育委員会での「学びの改革パイオニア校 ～「探究」推進のための研究～」の指定を受け、「探究的な学び」を研究するとともに、県内外の小中学校にその過程や成果を発信していく

### 4 学校経営を支える行動規範 「普通を見直す」